

歩数計活用、禁煙も支援

経産省認定 県内先進2社

全社員約60人が携帯する歩数計。読み取り機の上に載せると歩数がデータセンターへ送信される。3年前からは歩数のCT(情報通信技術)支援。同認定企業の一つ、I

とちぎ経済スコープ

社員の健康増進を企業の成長につなげようと、全国健康保険協会(協会けんぽ)栃木支部の取り組みなどで県内にも広がり始めている「健康経営」。経済産業省が2016年度に創設した「健康経営優良法人」認定制度で初認定を受けた県内の企業2社を通じ、実践内容やその効果を紹介する。(田面木千香)



県オリジナルの職場体操「元気ニコニコ体操」に取り組む社員たち=さくら市氏家の大古精機

「健康経営」で社員に変化

援のスキット(宇都宮市清津2丁目)が取り組む社員の健康増進策だ。

「歩数計を持つことで自動的に歩くようになる。ランキングで楽しめるのもポイント」。山田義治社長(63)は変化を説明する。自治体や企業向けに提供する同社の健康づくり支援サービスを

業員が勤める中小企業約2万6千社に占める割合は5%未満にとどまる。栗田昭治支部長(62)は「中小企業への浸透はまだまだ」とした上で「経営者の理解が必須」と指摘している。

課題を把握。社員の健康意識などを調査した上で、医師によるセミナーを開き、禁煙外来受診費や禁煙グッズを補助する禁煙支援に、毎日の職場体操、検診受診などでポイントをためるとクオカードがもらえる健康マイレージにも取り組む。禁煙には2人が成功、3人が挑戦中だ。セミナーを聞いて決意し成功した吉沢和弘さん(53)は「健康を害すれば、家族に迷惑が掛かり仕事は滞ると気付かされた」と話した。

中小は浸透途上 経営者理解必須

社内で活用したため、「気軽に取り組めた」という。健診受診率などを基に

は、大古秀子社長(67)の掛け声によって、昨年2月から取り組み始めた。

同社には、健康経営優良法人だからとの理由で求人応募してきた人もいい、対外的な企業イメージの向上にもつながっている。

企業の健康度が分かるよう、協会けんぽ栃木支部が独自開発した「健康格付型バランスシート」を導入した企業を見ると、発行2年目の16年度は1248社と前年度の約3倍となっている。

「少子高齢化に伴い人材確保が困難になる中で、事業を続けていくには、社員の健康を守る必要がある。年配者が持つ技術の継承にもつながる」と導入理由を力説する。

同シートで、高血圧の人と喫煙者が多めという

栗田支部長は「魅力ある職場となり従業員の定着にもつながる。健康経営と一緒に取り組みましよう」と呼び掛けている。